



東京赤坂ロータリークラブ

NO. 1123 / 2012. 10. 26

例 会/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目アネックス 3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

<http://www.akasakarotary.com/>

東京赤坂ロータリークラブ週報  
Weekly Report

2012~2013 年度クラブテーマ  
会長 尾関 武男

「僅かなことにも手を差し伸べよう、そして信頼と絆」  
Give a hand to even to the small things. Build trust and bonds.

●本日の例会/ 2012 年 10 月 26 日 第 1230 回

卓話:「仏教四方山話」

一心グループ 会長 真田 惣行 氏  
(福山赤坂ロータリークラブ)

●前回報告/2012 年 10 月 19 日 第 1229 回例会

卓話:「ロータリーの環境保全について」  
RI 第 2750 地区 社会奉仕委員会  
副委員長 木村 真 氏 (東京恵比寿 RC)



紹介者: 橋本会員

社会奉仕委員会: (橋本委員長)

東日本震災復興支援を前年度では陸前高田市の「市民癒しの公園・集会場・松苗木第二補植所」を建設し贈呈致しました。今年度は陸前高田市の高田中学校運動場が仮設住宅とその駐車場で使わざるを得ず中学生の運動・集会が危険この上ない状況で有ることから周辺住民・父兄から運動場の整備要望が有るとして陸前高田 RC ではこの状況を改善したいので協力してほしいとの話が有り、東京赤坂ロータリークラブでは理事会で議論した結果、新世代育成にも係る大切な事と成り支援する事と致しました。支援といたしましては必要費用 280 万円の内 50 万円を支援する事といたしました。この内の 25 万円を復興支援地区委員会に申請致しましたところ、昨日、支援価値が有るとのご判断で承認を頂きましたのでご報告致します。今年度 12 月完成を目指して進めますので、改めて進捗状況を報告致します。

出席報告: 会員 40 名/出席 19 名・欠席 21 名

ゲスト: RI2750 地区社会奉仕委員会副委員長 木村真 (卓話/東京恵比寿 RC)、古屋文隆 (東京城西 RC)、山田愛子 (西澤様ゲスト)

ビジター: 宇佐美博子 (東京恵比寿 RC)、勝島敏明 (東京南 RC)、藤原有三 (東京南 RC) 計 6 名 (敬称略)

●次回予告/ 2012 年 11 月 2 日(金) 第 1231 例会

卓話予定: 株式会社エムエスピー  
代表取締役 植草 美幸 氏

11 月 火曜会のご案内

「続・日本を元氣にするファストフード」

前ロッテリア代表取締役社長

篠崎公認会計士事務所

所長 篠崎 真吾 氏

11 月度の火曜会のご案内です。

9 月 21 日の例会の卓話をお話をいただきました篠崎真吾さんをパネラーにお迎えして、お話を伺います。例会の卓話ではお話できなかったこと、皆さんと質疑応答を含め、一杯やりながら心ゆくまでお話し合いをしたいと存じます。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

開催日: 2012 年 11 月 6 日 (火) 18:30~20:30

場 所: 例会場 ホテル 36F 「MIXX バー&ラウンジ」

※旧マンハッタンラウンジ

TEL: 03-3505-1111

会 費: 8,000 円 (今回ののみ、講師料を含みます)



10月 19日(金) / 9件 18,000円

累計 366,000円

多額の寄付を有難うございました。

尾関武男/木村真様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。入沢頼二/木村様、本日は環境についての卓話ありがとうございます。橋本年男/地区社会奉仕委員会副委員長木村真さん本日の卓話、よろしくお願ひ致します。当クラブ環境保全の参考にさせていただきます。西澤民夫/木村さん、本日の卓話楽しみにしています。山田さん、よくいらっしゃいました。田村昭二/衣替えでバッヂを忘れました。佐藤さんニコニコご苦労様です。石井謙次/良い天気ですね。小林さん、佐藤さんニコニコご苦労様です。小林博茂/暑すぎる夏から寒すぎる冬に突入しそうです。日本の政治経済もそうならないことを願っています。佐藤さんニコニコピンチヒッター有難うございます。土屋東一/佐藤さんニコニコご苦労さまです。佐藤仁/木村様、卓話楽しみにしています。本日、島本様のピンチヒッターです。

## 10月19日卓話：ロータリーの環境保全について

10月19日の例会卓話、地区社会奉仕委員会副委員長の木村眞氏（東京恵比寿RC）より「ロータリーの環境保全について」というテーマで、具体的な内容として「首都高速の再生に関する有識者会議提言書」なるものを地区環境保全委員会が中心となって提言し、何とか2020年のオリンピックまでに実現できるように取り組んでいます。当初、杉並、城西、西南の3クラブが中心となって専門家などを交え研究し提言を行っていたが、今では行政の協力もあり、官民一体となって実現に向けての活動が広がっております。

都心環状線は建設してから40年以上も経過し、耐用年数50年と云われておりますからかなり差し迫った問題です。建設当時は短期に完成させる為に河川、主要道路の上に建設し、現在では美観、騒音、交通渋滞、耐震問題、その他さまざまな環境問題も発生させております。そこで提言として現在の高速道路を取り払って深度40メートル以下に高速道路を建設しようというものです。そうすればそれらの問題は一挙に解決します。しかも税金を使わず8年もあれば完成できるとのことです。その活動は実現に向かって着実に歩みだしております。高速道路の民営化については熱心な議論と社会の関心が集まりましたが、このような提言はあまり行われなかつたと思われます。これからはマスコミも取り上げ、ロータリーの存在感が高まることを期待します。

ロータリーは社会でのリーダー的存在の集まりであり、幅広い専門家の集まりであります。さらに利害関係も薄い団体であります。社会に対してこのような提言を積極的に行い、よりよい社会環境を実現してゆくというのが本来ロータリーにもっとも期待されている活動かなど、あらためて考えさせられる卓話でした。

（環境保全担当リーダー 入沢頼二記）

## 10月：米山月間「米山奨学金について」

日本で学ぶ外国人留学生を支援する、日本の全ロータリークラブによる「多地区合同奉仕活動」です。これまでに支援した奨学生は109か国1万3,902人にのぼり、日本の民間奨学財団では最大規模です。

“日本ロータリーの父”米山梅吉氏（1868-1946）の没後、彼の功績を偲ぶために何か有益な事業を、という声がロータリアンから上がりました。

「世界に“平和日本”を理解してもらうためには、まずアジア諸国の理解を得なければならない。アジアから一人でも多くの留学生を迎える、平和を求める日本人と出会い、互いに信頼関係を築くことこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか」。こうして東京RCで始められた「米山基金」が、全国ロータリークラブの合同事業として広がり、1967年7月、文部省（現文部科学省）から財団法人の許可を得るに至りました。2007年度は、財団設立40周年を迎える記念すべき年です。

米山奨学事業の特長は、世話クラブ・カウンセラー制度によって、奨学生一人ひとりが日本での留学生活において精神的な支えを得、かつロータリー活動に密着することができる点にあります。ロータリーが求める平和の精神を胸に刻んで卒立った元米山奨学生には、韓国駐日大使やスリランカ警察庁長官、ネパールの女性職業訓練センター所長のほか、韓国・台湾でガバナーを務めた人もいます。元奨学生を中心に組織される米山学友会は海外を含めて27あり、災害時のボランティア活動やシンポジウムの開催など、社会に貢献する活躍をしています。（ロータリージャパンより）



めんぼう N089

関 陽一

### 意志と意思

私の仕事に関するちょっとした話題を。コンサルタントにも様々な領域があって何をもって成果とするかも多様ですが、もっぱらコンサルタントの評価の大部分を左右するものが「報告書」等の成果物（アウトプット）の出来です。ステークホルダー全員に我々コンサルタントが直接説明することは難しく報告書だけでインプットする可能性があるので尚更です。私はシステム・エンジニアからコンサルタントに鞍替えしましたが、その時に最もギャップを感じたのが言葉の重みです。曖昧さを排除して誤解無く「伝えたいことを伝える」ために、適切な言葉を選んで表記をぶらさずに一貫させることができが習慣として身に付いたように思います（あくまでも自己評価です）。

自分でも使い方に気を付けている、曖昧になりがちな単語の例をあげてみます。同じ発音の言葉の場合、話し言葉では問題にならなくても文字にした時にぶれや誤りが露呈してしまいます。例えば、「規定」と「規程」

はガバナンスやプロセスを語る際にはどちらも頻繁に使うのでややこしいのですが、こうして並べてみると普段は意識せず使っていたりしませんか？私もついうっかり間違えがちなのが「制作」と「製作」です。ホワイトボードに書きながらお客様とディスカッションしている時に間違えると即座に指摘されてしまいます。当然ですがお客様からすると気になって仕方がないのでしょうか。「共同」と「協同」、「趣旨」と「主旨」などはいかがでしょうか。並べてみると意味の違いを疑いますが、いざ単品で使う時は慣れ親しんだ方をささと書いて終わりにしていたりするのではないでしょうか。パソコンに頼り切ってしまうことも問題なのかもしれません。

発音が全く異なる言葉でも普段意外と曖昧だったりするのが、「問題」と「課題」が代表格でしょうか。どちらも「XXの解決」のような形で語れるのでコンサルタントは誰もが一度は通るのではないかと思います。新人にプレゼンさせると大抵混同しています。ちなみに、私自身の理解を簡単に表現すると、やや概念的ですが、前者は事実であり、後者は「意志」の結果、ということになります。あれ、「意思」だったっけ？？